



エコプロ2018 日本WPAブース  
エコかるたを楽しむ子ども達と田島会長

2002年4月、イギリス・バーミンガムで行われたIPEX2002において発足した「日本WPA」は、現在、水なし印刷の普及・啓蒙に加え、環境負荷低減に関する様々な取り組みを行っている。12月6日から8日まで東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2018」にも出展し、活動をアピールした。会期中のブースでは環境をテーマにしたオリジナルの「エコかるた」を使ったかるた大会も行われ、子供が集まるブースの一つとして賑わった。現在の（一社）日本WPAの取り組みについて、田島久義会長に伺った。

日本WPA

## 環境対応型「水なし印刷」の地位確立へ

### 認知度向上し普及促進目指す

日本WPAは、「SDGs時代の環境と社会、そして未来へ」をテーマに開催された「エコプロ2018」に出展し今年発動した「日本WPA・SDGs宣言」や、環境について楽しく学べる「エコかるた」の配布などを通じて、事業活動を紹介した。SDGsが掲げる17のゴールには、日本WPAの取り組みが様々な形で連れているという田島会長。例えばCO<sub>2</sub>排出量削減の一環としてスタートしたカーボンオフセット事業では、日本WPA全体でカーボンオフセット量が5900トンに上る（2018年12月時点）。「地球温暖化防止に役立つ事業としてスタートした活動ですが、本来の水なし印刷の特長は印刷現場のVOCを減らすことにあり、それは働く人の健康維持に直結します。どちらもSDGsにも含まれる要素であり、こうした日本WPAの活動を社会にも広く知ってもらうことで、会の活性化に繋がりたいと願っています」と語る。

日本WPAでは、VOC削減に関する活動として、（一社）地球温暖化防止全国ネットによる「低炭素杯」（2019年2月8日、カレッジかわさき）にも協賛している。協賛企業としてバタフライマークにちなんだ「日本WPA最優秀未来へのはばたき賞」を設け、優れた低炭素に関連する活動を行った組織を顕彰している。

また世界WPAにおける日本WPAの活動は、アジア全域にも及ぶ。会員企業の中には中国や韓国など海外企業も含まれ、特に最近では中国やインドからの注目も高まっているという。今年にはインドの展示会にも出展し、水なし印刷を紹介。インドは中国以上の経済発展を遂げているといわれる一方、大気汚染や水の汚染などが深刻化しておりVOCや排水・廃液の問題について注目度が高い。インドの印刷産業は、国のGDP成長率よりも高い成長を遂げており、急速に環境負荷の低い印刷技術を採用する動きが出ている。

中国の「水なし印刷」はヨーロッパもしくは日本経由で版を購入するため、GREEN対応という付加価値も相まって高級印刷に分類される。そのため水なし印刷は優良企業で扱う印刷方式というイメージが強い。しかし、政府主導による環境規制が進んでいることもあり、中国の環境省に対して様々なデータの提供や教育支援なども行っている。

一方国内では、来年4月に改定されるグリーン購入法のオフセット印刷に関連する項目で、VOCの発生抑制の基準として「水なし印刷」が盛り込まれる予定だ。大手印刷会社の導入が多いことや、オフセット印刷における環境対応の効果などが認められ、改正案のドラフトに盛り込まれた。これにより公的機関の入札案件の好条件として、また地方への影響なども期待でき、「採用が決定すれば、今後、一般企業の印刷方式選択にも影響すると思えます」という田島会長。「環境に優しいとされる基準が数多くありますが、グリーン購入法のガイドラインに盛り込まれることで環境対応型の印刷としての地位が確立します。今後は、社会全体に水なし印刷とバタフライマークについて知って頂ける活動を続けていきたいと考えています」と述べている。